

- 2.1 久著呂川流域における土砂流入対策について
- 2.2 久著呂川流域における土砂流入対策の効果・成果と課題について
- 2.3 湿原全域に対する事業効果の検討について
- 2.4 雪裡地区の自然再生検討について**
- 2.5 全体構想見直しに係る各取組の点検・評価について

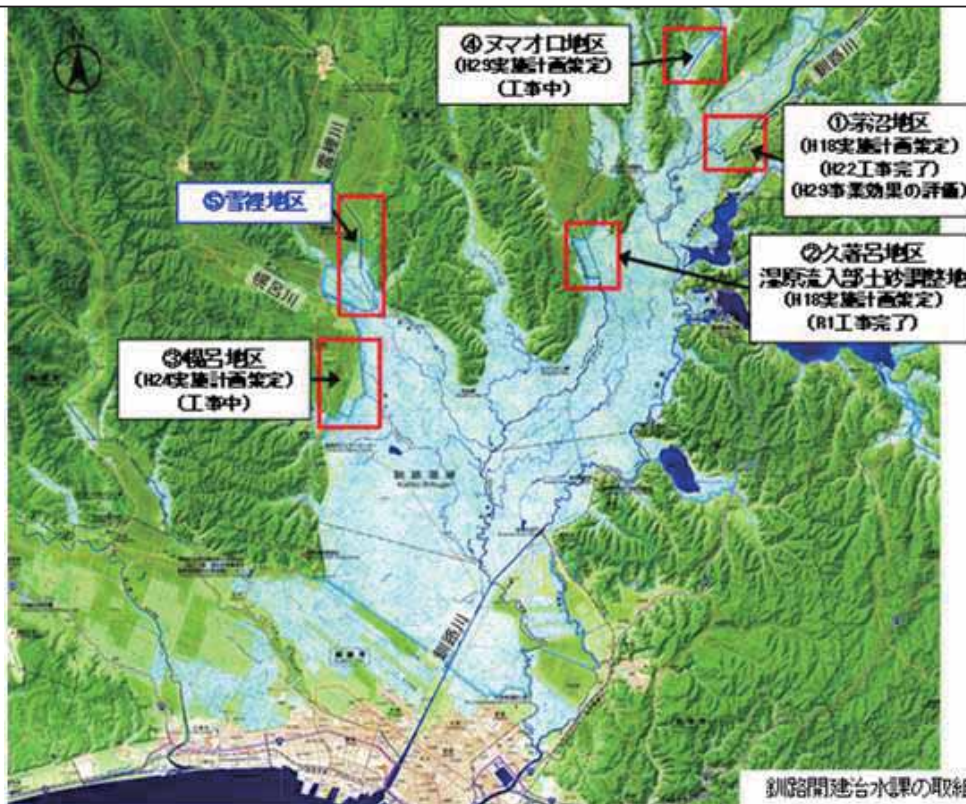
2.4 雪裡地区の自然再生検討について

- 1. これまでの取組経緯
- 2. 雪裡地区の現状・変遷・課題
- 3. 雪裡地区自然再生検討案

1. これまでの取組経緯

1-1. これまでの取組経緯と雪裡地区の位置

◆ 下図の①～④の事業を進めてきた。雪裡地区は5箇所目の取組となる。(釧路開建治水課の取組のみ記載)



釧路開建治水課の取組を記載

1-2. 全体構想における雪裡地区の位置づけ

◆ 全体構想では、雪裡地区は土砂流入対策、湿原再生、旧川復元の施策が位置づけられていることから、これらの対策に取り組む。（第2回自然再生協議会資料により作成）。

施策	取組	具体的施策	対策箇所	対策状況 (2024年現在)
土砂流入対策	水辺林・緩衝帯 土砂調整地による土砂流入の防止	水辺林・緩衝帯 土砂調整地	釧路川	旧川復元で実施済
			雪裡川	
			幌呂川	
			久著呂川	実施中
			オソベツ川	
湿原再生	湿原の再生	相対的な地下水位の回復	幌呂地区	実施中
			釧路川本川茅沼地区	モニタリング中
	湿原植生の制御	農地跡地の湿原再生	広里地区	実施済
		湛水による影響把握	雪裡樋門地区	試験湛水済
		旧川復元(幌呂川)	雪裡川地区※	
野生生物	生物の生息環境の把握と保全	タンチョウやキタサンショウウオ、イトウ、ヤチボウズなどの生物を指標として生息環境を把握する。	釧路湿原全域	
			湿地の沈砂池の利用	久著呂川地区
旧川復元	直線河道の再蛇行化	過去に直線化された河川を可能な限り蛇行した河川に復元	釧路川本川茅沼地区	実施済
			幌呂川	
			雪裡川	
			ヌマオロ川	実施中
			オソベツ川	

※幌呂川の旧川復元により、雪裡川合流点への土砂氾濫を防止することとしている。

1-2. 全体構想における雪裡地区の位置づけ

- ◆ 土砂軽減対策は、茅沼地区・久著呂地区を実施済であり、ヌマオロ地区を実施している。
- ◆ 土砂流出軽減対策が未実施の河川の中では、雪裡川が最も土砂の負荷が大きく、対策の優先度が高い。

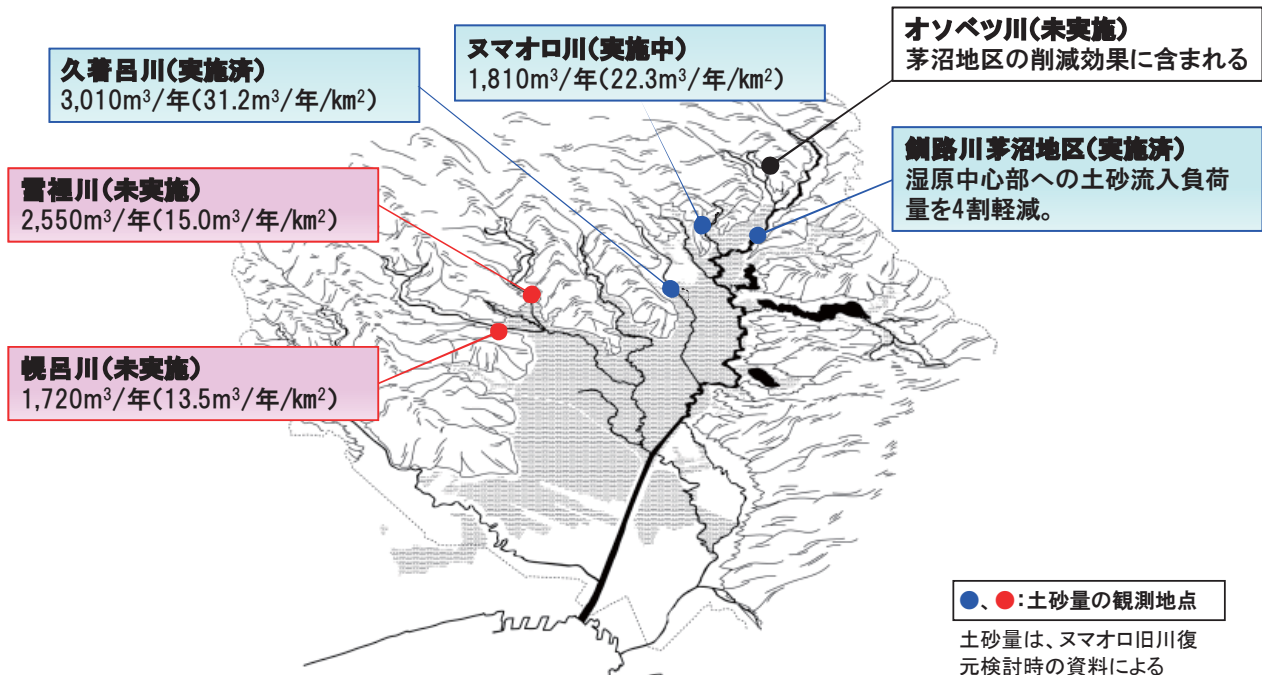


図 主要支川から湿原に流入する土砂量(浮遊砂量)

2. 雪裡地区の現状・変遷・課題

2-1. 雪裡地区自然再生対象区間の概要（国管理区間）

- ◆ 雪裡地区自然再生対象区間は幌呂川合流点から上流3kmの区間であり、右岸側に旧雪裡川、左岸側に雪裡川の支川であった旧川がみられる。



写真1 雪裡川直線河道

直線河道の状況



雪裡川：直線河道の状況



写真2 直線河道左右岸の旧川と旧雪裡川

旧川の状況



旧川：樹木に覆われ、流路が蛇行している

2-2. 雪裡地区の変遷 (1/2)

◆ 1973年～1979年に雪裡川が明渠排水路として整備され、直線河道となった。



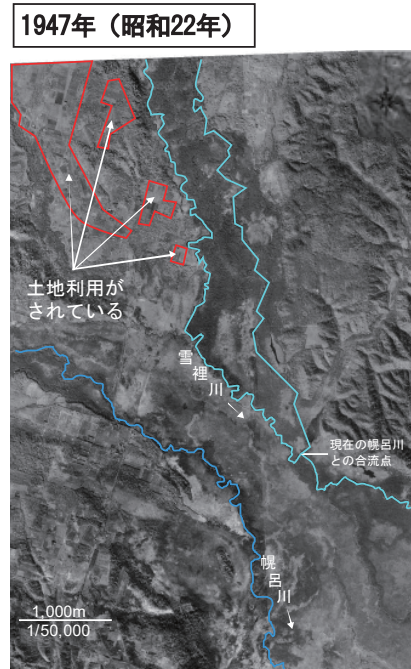
赤点線は現在の雪裡川の滞筋を示す



もとの雪裡川と鶴居芦別川の合流点から上流側を鶴居芦別川、下流側を旧雪裡川と呼ぶこととする

2-2. 雪裡地区の変遷 (2/2)

◆ 雪裡川が直線河道となった後、河道周辺の農地整備が進展した。



• 雪裡川は蛇行した河川であった。



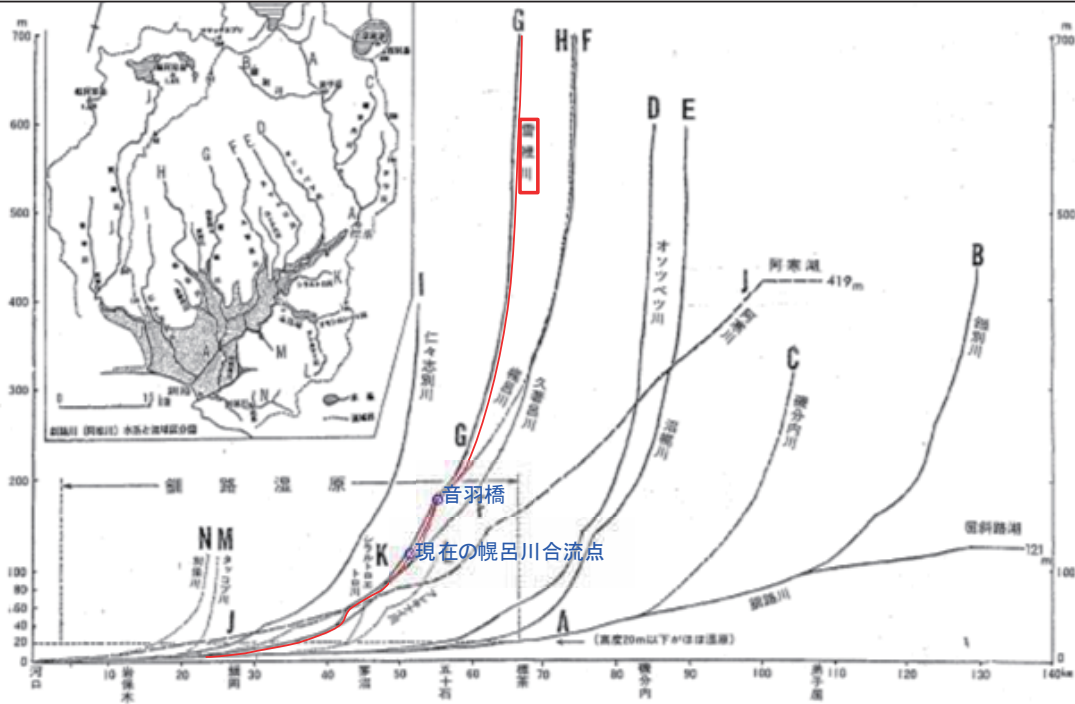
• 雪裡川は1973年～1979年の直轄明渠排水事業により直線河道となった。
• 音羽橋周辺では農地開発が進展した。
• 幌呂川が切替えられ雪裡川に接続した。



• 排水路整備後に、雪裡川沿いの湿原でも農地開発が進展した。

2-3. 土砂に関する現状 (雪裡地区)

◆ 幌呂川合流点から音羽橋にあたる区間は、湿原中心部に向けて河床が急勾配から緩勾配へと変化する場所であり、上流から流れてきた土砂がたまりやすい。



Ⅲ-4図 釧路川(および阿寒川)と支川の縦断面図

釧路湿原総合調査報告書(1975.3)釧路市立郷土博物館, p51

2-4. 雪裡川の河道変化 (1/2)

◆ 雪裡川は、明渠排水路整備後に最大2m程度の土砂堆積がみられ、河床高が上昇した。

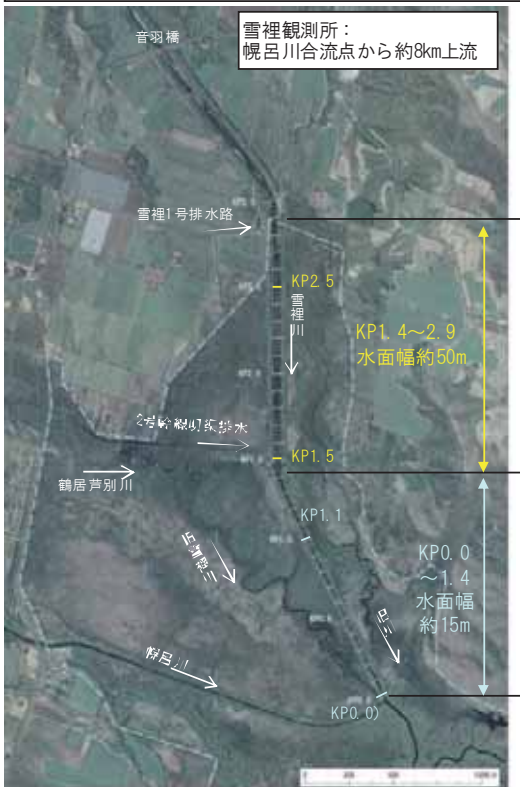
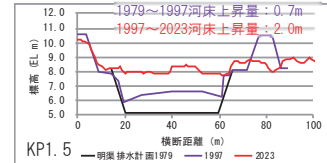
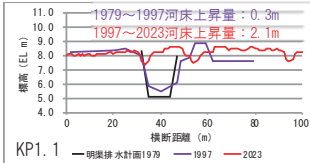
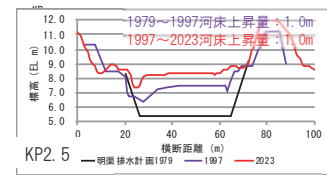
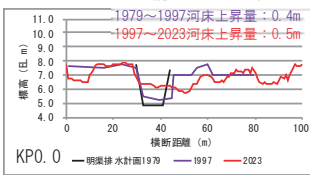
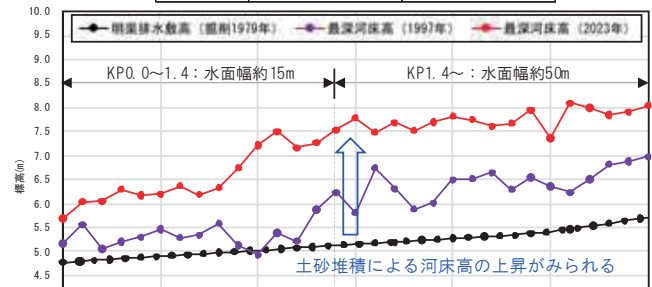


表 各年代の河床上昇量

	KP1.4下流区間 水面幅約15m	KP1.4上流区間 水面幅約50m
明渠排水整備前1979年	平均0.38m(約0.02m/y)	平均1.07m(約0.06m/y)
1997年	平均1.19m(約0.04m/y)	平均1.32m(約0.05m/y)
2023年		

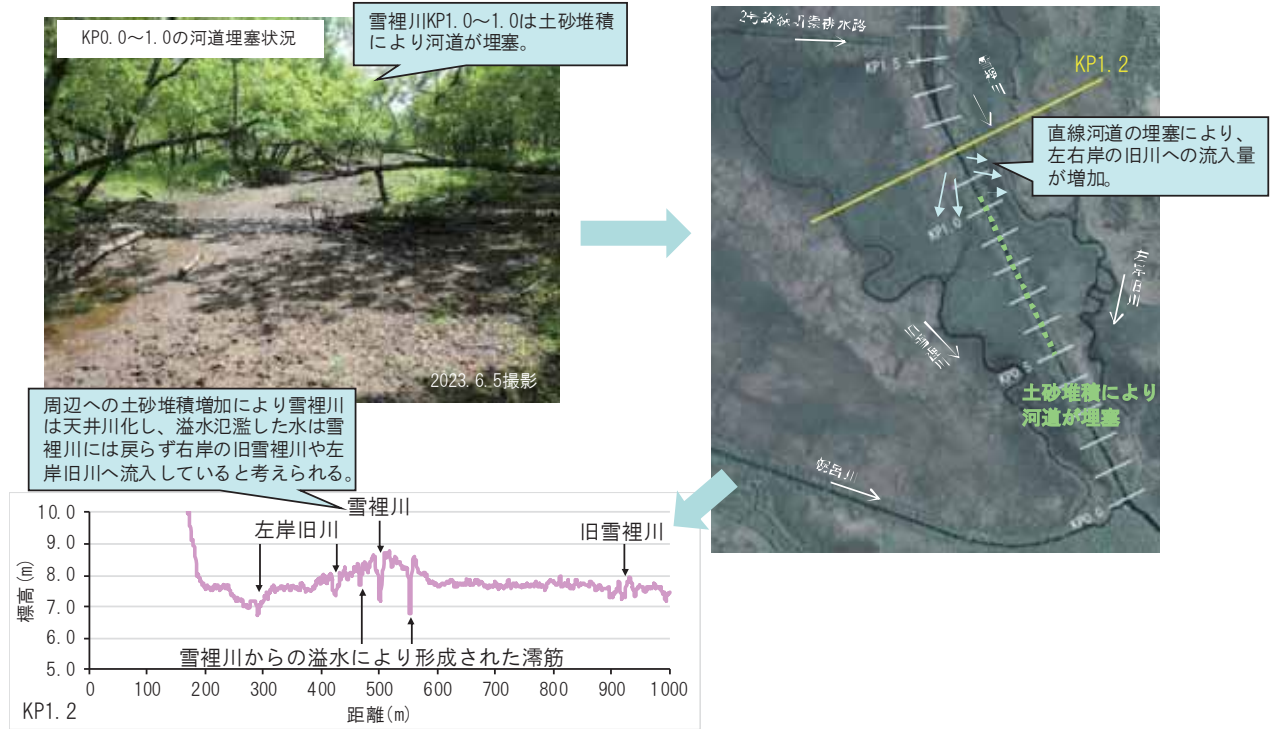


2. 雪裡地区の現状・変遷・課題

2-4. 雪裡川の河道変化 (2/2)

106

- ◆ 雪裡川のKP0.0~1.0は土砂堆積により河道が埋塞している。
- ◆ 河道埋塞により左右岸の旧川への流入量が増加しており、自然現象により旧川復元が進行している。

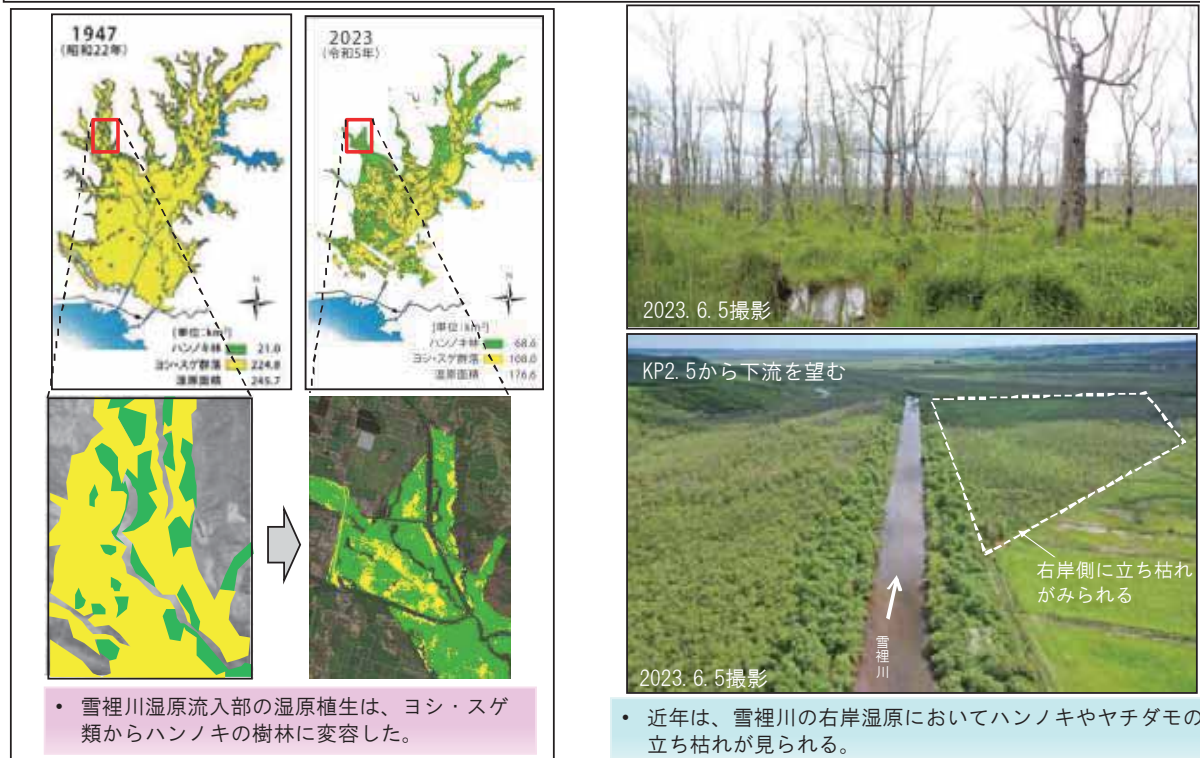


2. 雪裡地区の現状・変遷・課題

2-5. 雪裡地区周辺の植生変容

107

- ◆ 雪裡地区の湿原植生は、1947年~2023年の間にヨシ・スゲ類からハンノキ林に変容した。
- ◆ 近年は、雪裡川右岸湿原の一部でハンノキ等の立ち枯れがみられる。



2. 雪裡地区の現状・変遷・課題

2-6. 農地への水位影響（配慮事項）

108

- ◆ 自然再生の実施により農地の水位が現状よりも上昇しないようにする必要がある。
- ◆ 具体的には、雪裡川に合流する2箇所の農地排水路合流部で水位上昇しないようにする。



写真1 雪裡川と雪裡1号排水路



写真2 雪裡川と2号幹線明渠排水

2. 雪裡地区の現状・変遷・課題

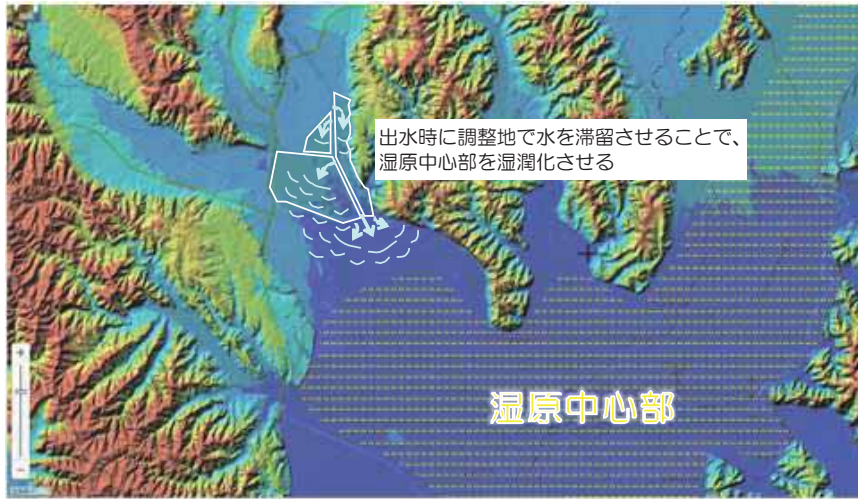
2-7. タンチョウの冬季のねぐらへの影響

109

- ◆ 雪裡川の対象区間は、冬季にタンチョウがねぐらとして利用しているため、自然再生の実施により影響が生じないようにする。
- ◆ 音羽橋付近のねぐらには冬季に世界中から人々が訪れ、地域の重要な観光資源となっている。

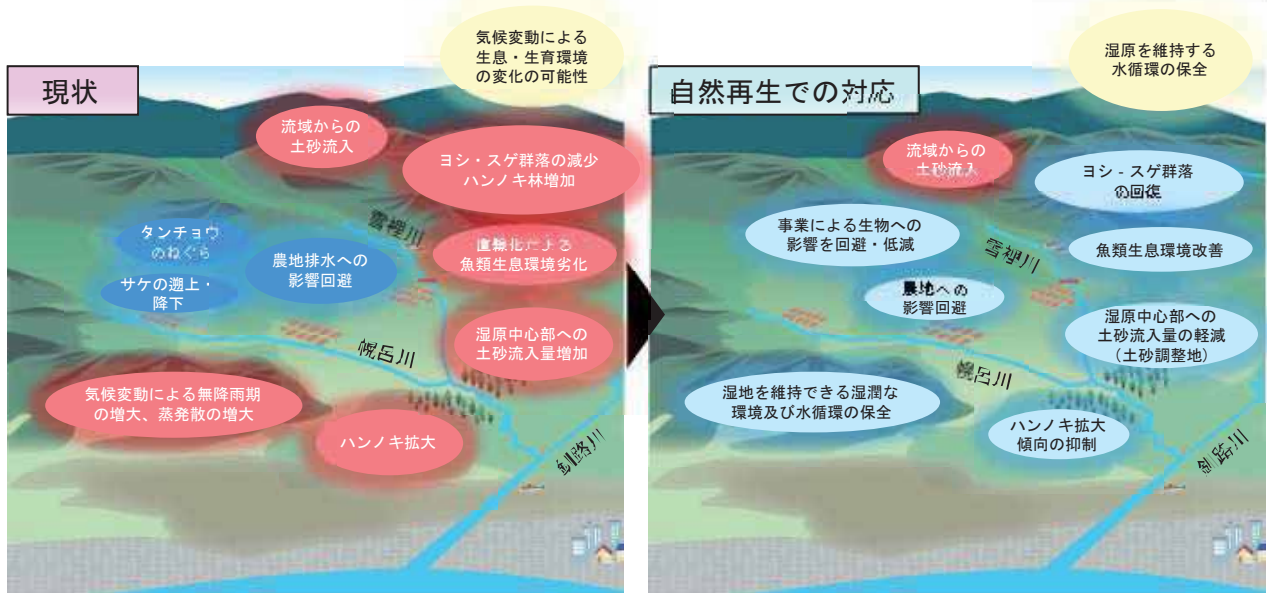


現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 近年、出水規模が増大するなどの現象が生じている。 無降雨期の増大などが予測されている。
方向性	<ul style="list-style-type: none"> 湿地を維持できる湿潤な環境及び水循環を保つ。



地下浸透による湿原中心部の湿潤化のイメージ

◆ ここまでの雪裡川の現状と自然再生での対応方針について、下記の通り示す。



- 現状の課題
- 自然再生を進めるにあたっての配慮事項
- 今後の懸念事項
- 自然再生での対応